



24春闘

申15号 2024年度賃金引き上げ等に関する申し入れ  
申16号 2024年度夏季手当に関する申し入れ **第2回団体交渉④**

## 職場における組合員・社員の努力の結果

### ①第3四半期決算

対コロナ前  
9割の回復  
営業利益  
対前年  
279%増

### ②業績予測 上方修正

営業費用の減  
各系統の  
努力

### ③足元の動向

2月  
鉄道営業収入  
対コロナ前  
99.4%

### ④中長期の 見通し

変革 2027 の  
数値目標  
運輸事業は  
順調に推移

### ⑤インバウンド

昨年 12 月  
過去最高  
2024 年  
過去最高予測

### ⑥世間動向

24春闘  
大幅賃上げ  
続出  
経団連・政府  
の賃上げ方針

## 全ての状況が好転している！

昨年以上のベアが出るのは当然であり、**満額回答を求める！**



□組合の主な主張



■会社の主な回答

□昨年以上のベアが出るのは当然だと考えるが会社の考えはどうか。

■総合的に勘案して決定する

□昨年の状況よりもすべてが好転している。

■よくなっているが、その先人口減少等もあり、中長期の見通し等、様々な要素で勘案して検討する

□23春闘のJR東日本の回答は経団連の大手企業平均より低い。このことは認識されているのか

■知っている。やっと黒字の状況だった

□23春闘と同様の回答では社員のモチベーションは上がらず、人材の確保も厳しくなる。そういう観点でも、昨年以上のベアを出す必要性があるのではないか。

■**営業収入は9割回復したが、本業の力示す営業利益が9割に戻っていない。すべて順風満帆でない。**この先見据え、どういうことができるのか検討する。

□今後の人口減少で働き手の確保は難しくなる。働いている者を大切にするためには賃金が最たるものになる。私たちの要求に満額で回答していただき、大手企業の平均を上回る手厚い賃金を払う企業だと認識されないと働き手の確保もできなくなり、またブラック企業などと好き勝手に書かれているが、そのようなものも払拭できないと感じている。人件費を抑制して利益を出すのではなく、要求に満額で回答し、働く者の努力に報いる会社へと転換を図るべきである。

■アピールしていくのは重要なことである。有価証券報告書にもある通り、670万円程度の年収からすれば、期末手当の支給月数で比較すれば、世の中より高い賃金水準の支給していると考えている。それだけでなく社員に安心して働いていただくためにどうしていくのかを常に考え、処遇改善含め検討していく。引き続き社員還元の充実、やりがいの向上、それが社員・家族の幸福の実現に繋がるという考えの下、どのようなことができるのか検討していく。

**職場の努力に報いない経営姿勢を突破するために組織の強化・拡大を!!**